

VI 広報、人材育成

1. 広報

下記の 1-1 一般公開と 1-2 施設見学及び学校研修の受入れを合わせた全見学者数は 1,420 名であった。

1-1 一般公開

当研究センターを地域住民や県民に広く知ってもらうため施設の公開を実施している。

2012 年度も、佐賀県科学技術月間中の 10 月 20 日（土）に開催し、158 名の入場者があった。中でも実験ホール見学ツアーは、一番人気となっている。

【公開内容】

- ・展示・実験（偏向電磁石の実験、実験装置・ガイガーカウンター展示、虹を見よう等）
- ・企業展示（株式会社ニコンインステック、田口電機工業株式会社）
- ・パネル展示（佐賀県上場営農センター、佐賀県玄海水産振興センター、九州大学、佐賀大学、株式会社ニコン、当研究センター加速器グループ・ビームライングループ）
- ・体験教室（太陽電池とペットボトルをつかったライトを作ろう、顕微鏡を作って小さな世界を見てみよう）
- ・実験ホール見学ツアー
- ・その他（シャボン玉で遊ぼう、クイズラリー等）



1-2 施設見学及び学校研修の受入れ

年間を通じて、専門の研究者から一般市民まで広範な分野から見学者を受け入れ、当研究センターの紹介を行っている。また、中学校や高等学校及び大学等からの要請により学校研修の受入れも行っており、科学への理解を深めてもらうことにも努めている。

1-3 施設紹介

当研究センターの装置や設備の概要については、学会や展示会等でポスター発表による広報も行っている。

2012 年度に参加し、口頭発表及びポスターの展示等を行ったものは次のとおりである。

- 九州シンクロトロン光研究センター利用タンパク質結晶構造解析研究
 - ・開催日：2012 年 6 月 7 日
 - ・開催地：熊本大学
- The 11th International Conference Synchrotron Radiation Instrumentation
 - ・開催日：2012 年 7 月 9 日～13 日
 - ・開催地：リヨンフランス
- The 15th International Conference on X-ray Absorption Fine Structure
 - ・開催日：2012 年 7 月 22 日～28 日
 - ・開催地：北京/中国

- 全国先端研究施設共用促進事業連携シンポジウム
 - ・開催日：2012年7月23日
 - ・開催地：京都大学
- 東北大学多元物質科学研究所・九州シンクロトロン光研究センター合同シンポジウム（第6回九州シンクロトロン光研究センター研究成果報告会）
 - ・開催日：2012年7月30日
 - ・開催地：東北大学片平さくらホール
- 6th Asia-Oceania Forum for Synchrotron Radiation Research And 4th SLRI Annual User Meeting
 - ・開催日：2012年8月8日～12日
 - ・開催地：バンコク/タイ
- 第36回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム
 - ・開催日：2012年9月6日～8日
 - ・開催地：サンホテルフェニックス（宮崎県）
- 5th International Conference - Channeling 2012
 - ・開催日：2012年9月23日～28日
 - ・開催地：アルゲーロ/イタリア
- VACUUM2012-真空展
 - ・開催日：2012年10月17日～19日
 - ・開催地：東京ビッグサイト
- 放射光施設連携産業利用報告会
 - ・開催日：2012年10月19日
 - ・開催地：八重洲カンファレンスセンター（東京都）
- 25th International Conference on Atomic Collisions in Solids
 - ・開催日：2012年10月21～25日
 - ・開催地：京都大学
- 平成24年度九州・沖縄産業技術オープンデー
 - ・開催日：2012年11月29日
- 開催地：産業技術総合研究所九州センター
- 平成24年度応用物理学会九州支部学術講演会
 - ・開催日：2012年12月1日～2日
 - ・開催地：佐賀大学
- 第26回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム
 - ・開催日：2013年1月12日～14日
 - ・開催地：名古屋大学

2. 人材育成

1-2 で述べた学校研修に加えて、佐賀県と当研究センターが県内中学生（2、3年生）を対象に光や電子を扱った実験を行う「サイエンスチャレンジ 2012」（2012.08.09）を実施した。

また、2011年度に続きインターンシップによる2名の学生（久留米高専）を受け入れ、一般事務からビームライン利用支援の研修を行ってもらったほか、自身の研究課題によりビームラインを利用した実験も行ってもらった。